



現在、盲学校には、地域の小・中学校の通常学級に在籍し、視力や視機能に障害がある弱視の児童生徒が、週1回程度通級指導教室に通ってきています。そして、見えにくさからくる困難を克服していこうとする力を付けるための「自立活動」という特別な学習と、見えにくさのためにつまずきがちな教科の補充学習をしています。今回の支援だよりでは、本校で行っている通級指導教室の様子を紹介します。

傾斜机を使って課題をする

弱視の児童・生徒は、プリント等しっかり見ようとすると目を近づけて見る事が多く、姿勢が悪くなりがちです。しかし、傾斜机を使うと比較的よい姿勢を保ったまま目を近づけて見ることができます。「みんなと同じじゃないからイヤ」「面倒くさい」等と言う児童生徒もいるのですが、必要な時に自分ですぐに傾斜机が使えるように練習しています。



< 傾斜机を使わない場合 >



< 傾斜机を使った場合 >

弱視の児童・生徒が、目を近づけて拡大して見ることは、手軽で効果的な方法です。「目が悪くなるよ」「目を離さない」等と注意しないで下さい。



ルーペや単眼鏡を使って見る

弱視の児童・生徒は、眼鏡をかけていますが、視力を上げることは難しいです。私たちと同じように見えるようになるわけではありません。しかし、手元の細かいものを見る時には「ルーペ」を、黒板等遠いものを見る時には「単眼鏡」を使うことで、いくらか改善できます。通級指導教室では、スムーズに単眼鏡で文字を読んだり動いているものを見たりできるように練習しています。

これは何と書いてありますか？



視力に応じた単眼鏡を使います



— ある日の指導 —

学校の担任の先生が通級指導を参観に来てくださったので、ふだんの授業の板書を再現していただき、単眼鏡の実践的な練習をすることができました。

iPad を活用して見る

iPadには様々な機能やアプリケーションがあり、それを活用することで全盲や弱視であっても色や形をある程度認識できるようになります。例えば、弱視であれば「ズーム」機能を使って拡大して見たり、「色を反転して」見やすい色にしたりすることで、認識しやすくなります。全盲の場合は、画面に表記された文字や写した写真を読み上げるようにすることで、文字や物、貨幣、色等が認識できるようになります。

個人の iPad を持ち込める学校は県内ではまだ少数ですが、iPad を使うことで見えにくさを改善したり困難さを補ったりできるように、通級指導教室で練習しています。



検索アプリを使って、ことばの意味を調べます



自分が見やすい背景や文字の色を使います

— ある日の指導 —

iPad で写してきた学校の授業の板書を見ながら、もう一度わからない問題を解きました。本人によると、学校では黒板の字が小さい時、iPad で写して拡大して確認しているそうです。

拡大読書器を使って読み書きする



拡大読書器とは、TV画面に文字等を大きく映し出す機器です。画面の高さと角度を変えることができるので楽な姿勢で見ることができます。また、倍率や色（カラー、白黒、黄黒等5種類）を手軽に変えることができます。



通級指導教室では、依頼に応じて通級指導対象生の在籍校へ相談に出向いたり、担任の先生に来校していただいたりする等して、連携をとりながら指導を進めています。

見え方が気になる児童生徒がいましたら、お気軽に相談下さい。

(TEL 076-262-9181)